

<私の心にキリストが>

ヨハネ1：14

アンデルセン作 『マッチ売りの少女』

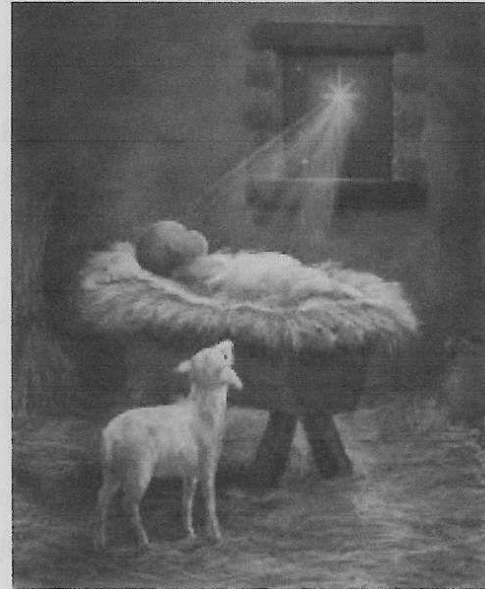
少女の最期は…？

アンデルセンが、物語の終わりに結んだ言葉があった。

人の生涯の終わり方は様々。

人は命が尽きる最期に、どんなことを思うのか？

クリスマスは、悲惨な歴史を背負い、苦しい現実を抱えながらも、救い主をずっと待ち焦がれた人々に、救い主(メシヤ)が一人の赤ちゃんとして、この地上にお生まれになったことが告げられた日。



まず、この喜びの知らせは羊飼いたちに告げられた！

「羊飼いだい」…社会の底辺にいて、貧しく、^{しいた}虐げられた人々。

いつものように、野宿をして羊の番をしていると…！主の使いが彼らのところに来て、主の栄光が回りを照らした。彼らは何事かとひどく恐れた。

御使いは彼らに言った。「恐れることはありません。今、私はこの民全体のためのすばらしい喜びを知らせに来たのです。きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。あなたがたは、布にくるまって飼葉おけに寝ておられるみどりごを見つけます。これが、あなたがたのためのしるしです。」 ルカ2：10～12

薄汚れた家畜小屋！

飼い葉おけ(えさ箱)に寝かされた赤ちゃんが救い主！

これがメシヤのしるし？！

- ◆生きていくのが辛い！しんどい！厳しい状況の中にいる人々の内に、救い主はやって来る。

ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。ヨハネ1：14

イエスキリストが人として生まれなければならなかったは、何のため？誰のため？

「ことばが人となった」 = 「ことばが肉となった」 = 「ことばが受肉された」

イエスさまの12弟子のひとりだったヨハネが見た、イエスキリストの姿とは？
私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光【14節】

「神が人とともに住む」その日が、まさにこの後にやって来る。

「見よ。神の幕屋が人とともにある。神は彼らとともに住み、彼らはその民となる。また、神ご自身が彼らとともにおられて、彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってください。もはや死もなく、悲しみ、叫び、苦しみもない。なぜなら、以前のものが、もはや過ぎ去ったからである。」

黙示録 21 : 3、4

イエス・キリストの誕生は、これを完了されるため。

「住まわれた」・・・「天幕の中に宿った、幕屋を張った」という言葉が元にある。

汚れて、臭いがする家畜小屋の飼い葉おけは、私自身。
ここに、神の御子キリストが来てくださった。

<新聖歌 87 入れまつる家あらず>

- 1 入れ待つる家あらず、休めまつる宿もあらず、ただむさき馬小屋を、仮の宿となし給う
畏れおし天地の 主におわすイエス君 人のごと罪の世に 生まれ給いぬ
- 2 ほめまつる人あらず 祝いまつる民もあらず ただ天つ御使いの 歌う声のあるのみ
畏れおし天地の 主におわすイエス君 人のごと罪の世に 生れ給いぬ
- 3 内の戸を今開き 真心より汝を迎えん 入り給え住み給え 救い主よわが主よ
畏れおし天地の 主におわすイエス君 人のごと罪の世に 生れ給いぬ